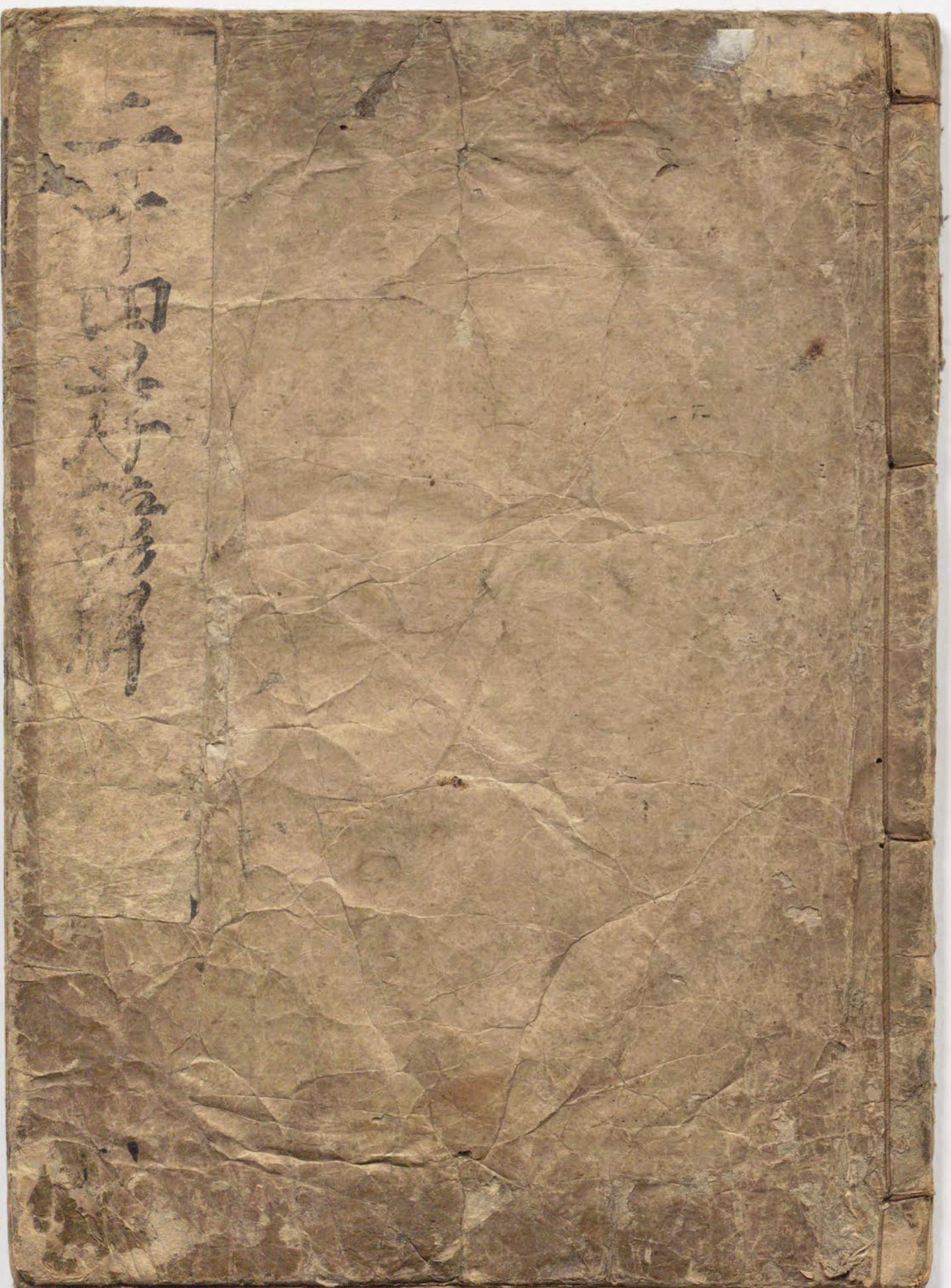
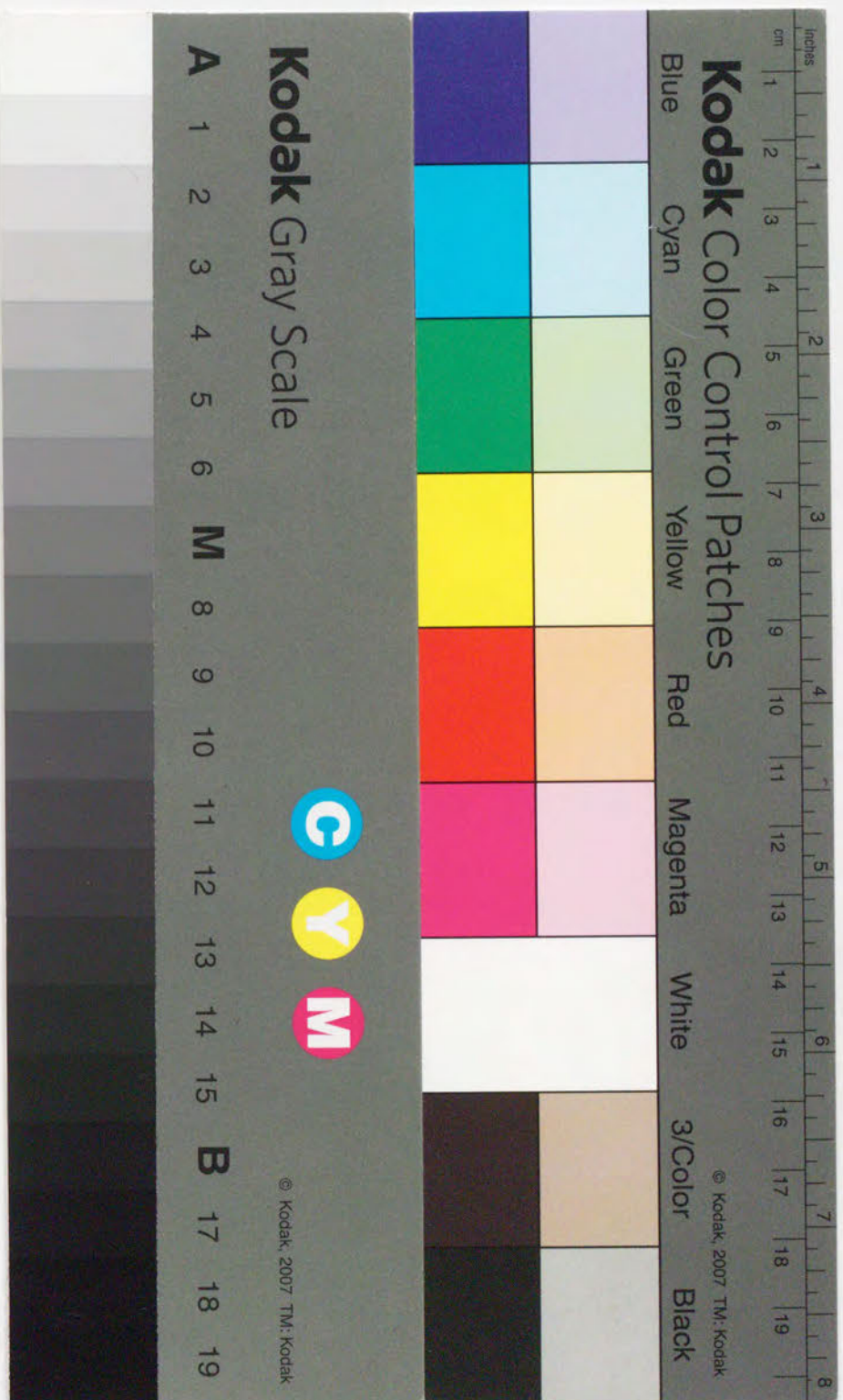






[illegible]

漢の^{かう}る^と架^かの^いま^いみ^みか

この時の名は恒とす

法母為大后と云々

仁ニ
考カウ
條リウニ
天テン
下カニ

巍ギ
 々キト
 冠クニタリ
 百ハク
 一
 王ワウ

漢^{カン} 廷^{テイ} 事^{ソカフルニ} 憤^{ケン} 母^{ボニ}

湯トウ 藥ヤク 必カネス 親シタニ 掌ノム

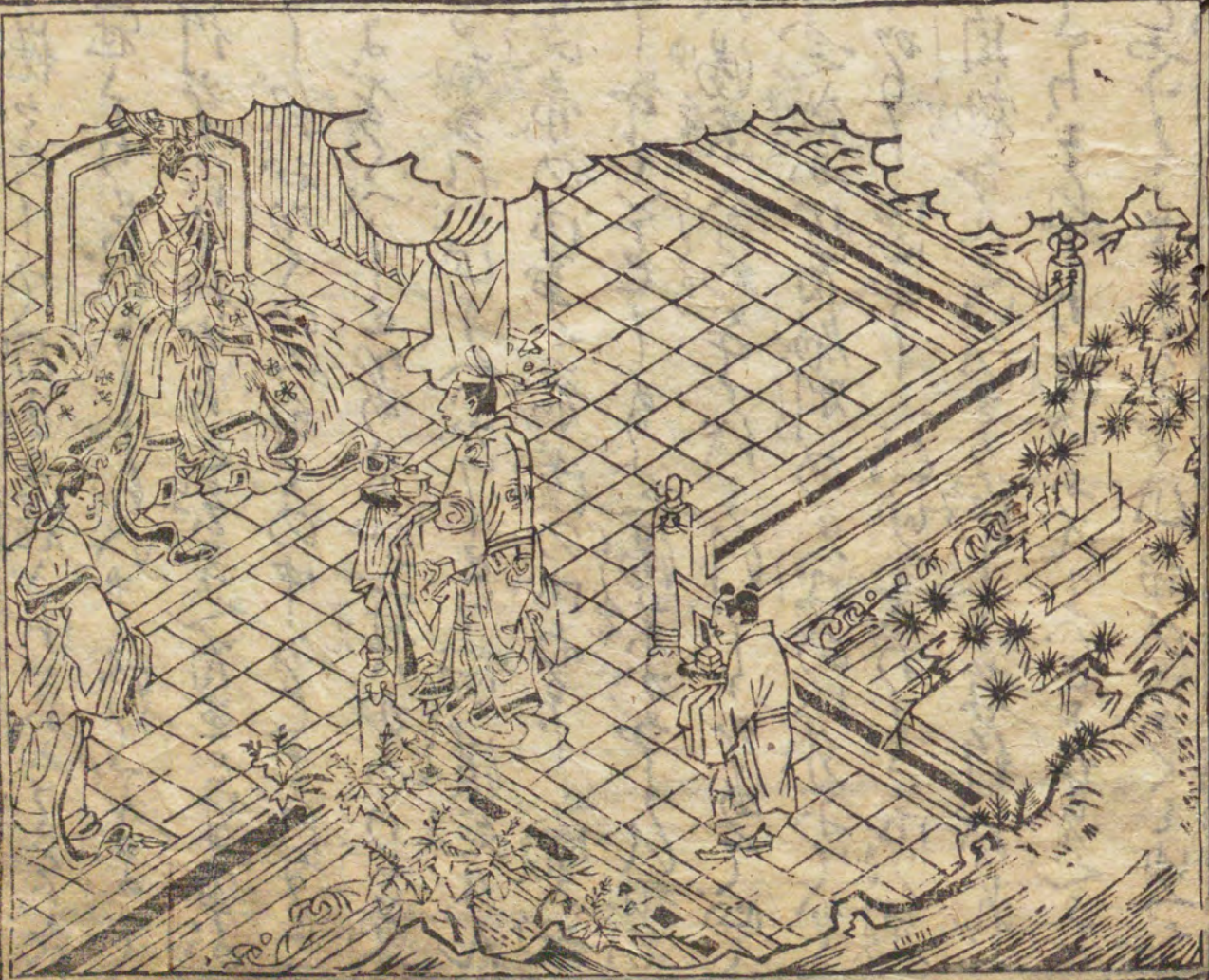
詩一二のハ文帝の作者

行城下めていひし三

夕タ其孝の誠之誠立

仁者天下の之を失ふ者

行のたがとなれ事天



[illegible]

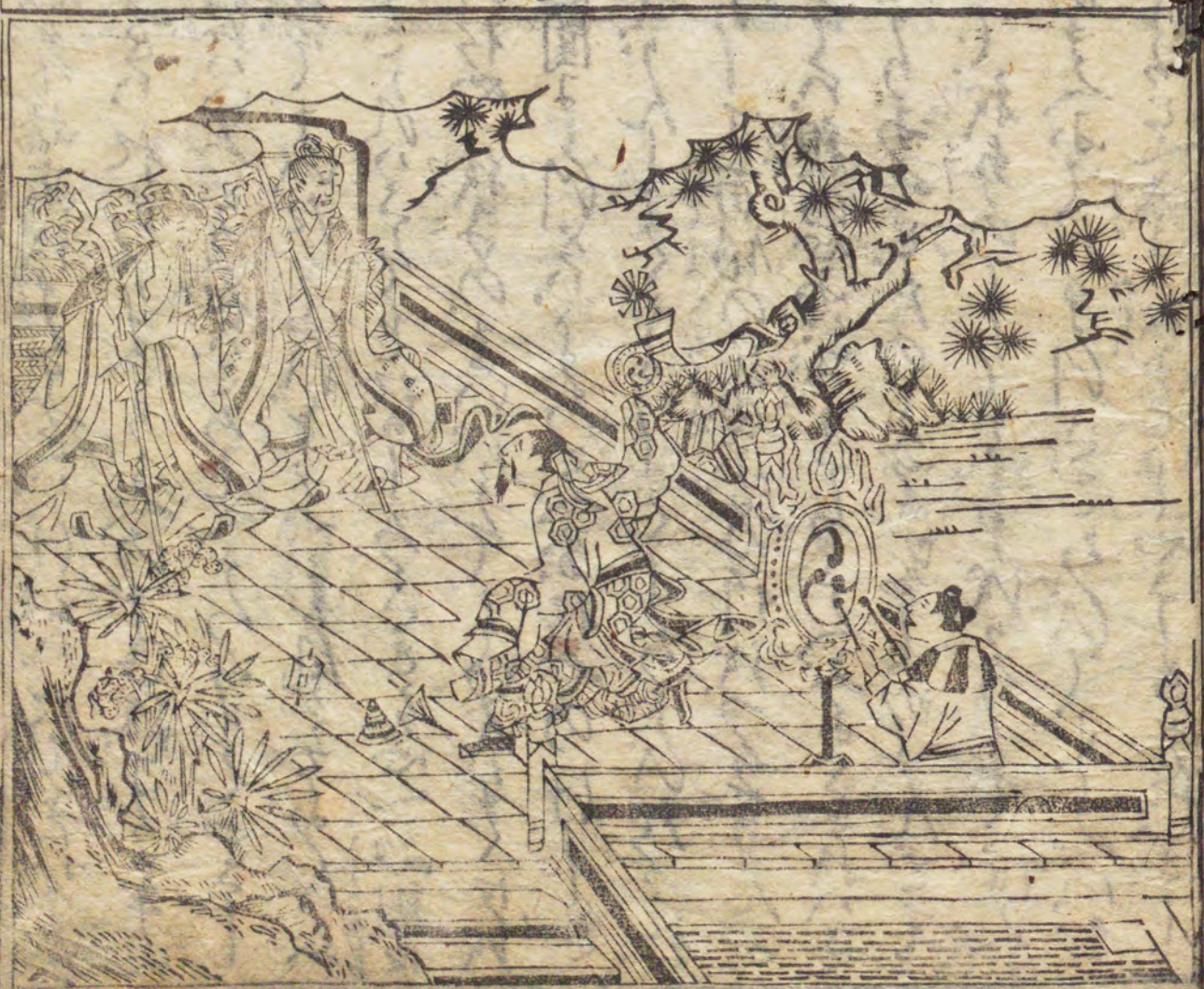
老萊子

楚國の人。又國の代乃
人をもつ。列女はよの
ちりきりれい女なりい
ま。後小男おつて事不震
日記古事云列女傳者葉子之輩

日記古事云列女傳入者萊子之妻也

戯^ク 春^{ハル} 双^{サウ} 蟲^{チウ}
 床^フ 風^{フウ} 親^{シン} 魚^{イソ}
 名^ナ 勤^{キン} 用^{ヨウ} 滿^{マン}
 嬌^{ケウ} 鉢^{ハチ} 口^ク 庭^{テイ}
 癡^チ 衣^イ 笑^{ウツ} 圍^{イニ}

け詩一二の句ハ老萊子
人の親ハいふ事ハ
え二の句ハ親の意ハ



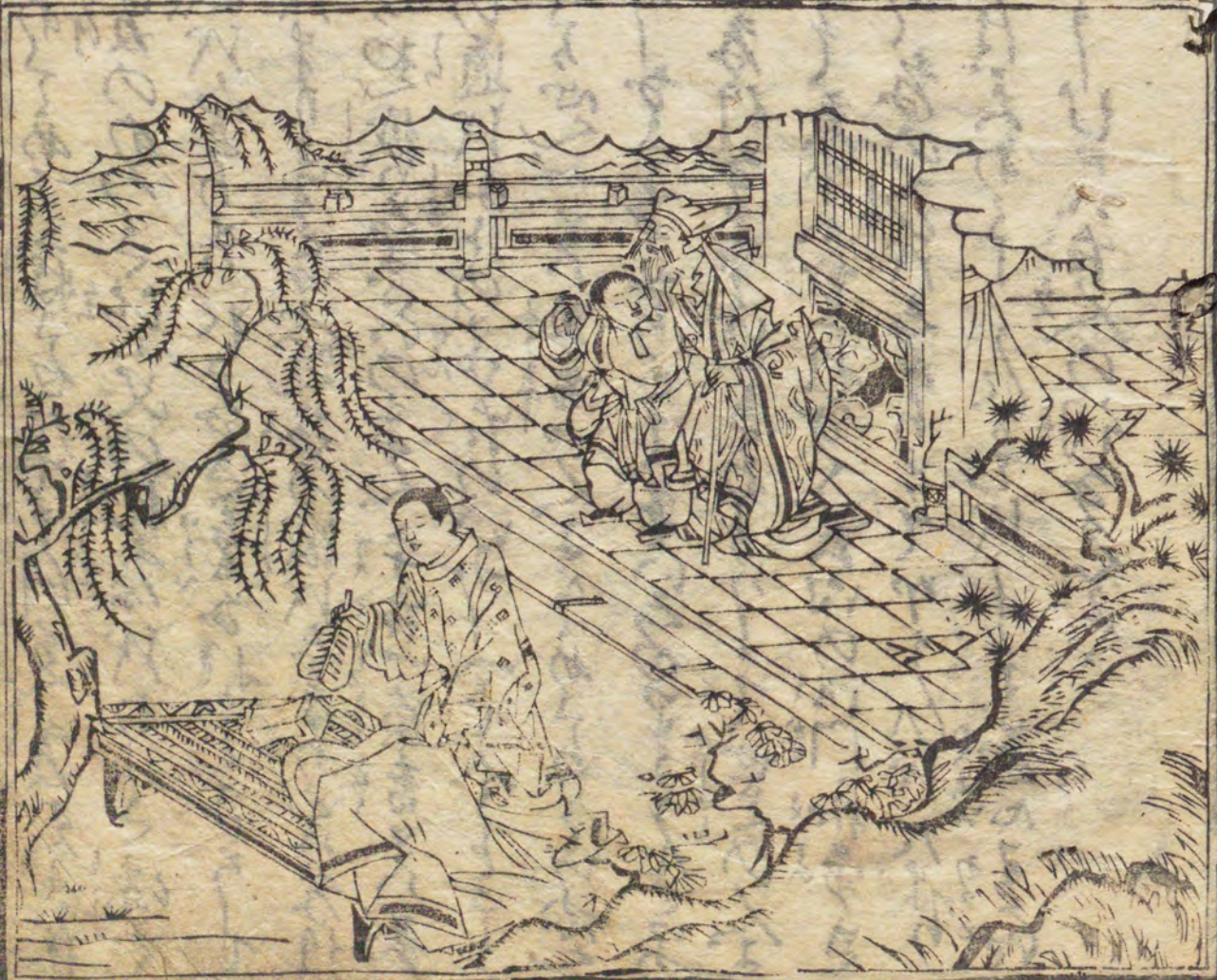
ろくろの事所他か之戯舞嬌癡はすまふにけがたふれす
と字守之けうちびするぶされろかなりくのまのばし事
春風殊衣はるるんさ殊いあらぬ夜にこもとごらんくやき
きびやうの事それだきてまたふれきふ春風をそめて
いてらんうきびやうはうごんさそとわたりろことえ心双親は
びびうて笑ふ二人のむや我子のまはるもひなく只
わけて日よき色庭園よりさふらえおねのけーさ
が趣のぼるるのかりぐんしくうりくうらびたるさ
心へさした老葉子七十物ありて百何の父母も孝行はつせん
我がころのむらうはるる親の心ふくらさみあきらめハさ
どられくづさるいうんりあせとたのしみやんとして
うへの時うやびきて我年のうりう事はうては人
らるゑれる所のむやのまふてつものさこらびてもるべか
くこく血はく見ふれさるさ城はあといやうき老然う

黃喬

江戸のあんまり
 は安藤といふ所の今
 老荘のみらば、すなはち
 えんげうと云ふ人の名
 して母をくき父も老
 と云ふ人

千 チ	兜 シ	衣 カ	冬 フユ
古 コ	童 トウ	天 テン	月 グハツ
一 イチ	知 チ	好 コウ	溫 ウン
黄 ワウ	子 コ	枕 シン	食 シヤク
香 キヤウ	賊 ゾク	碌 ロク	煖 ナン

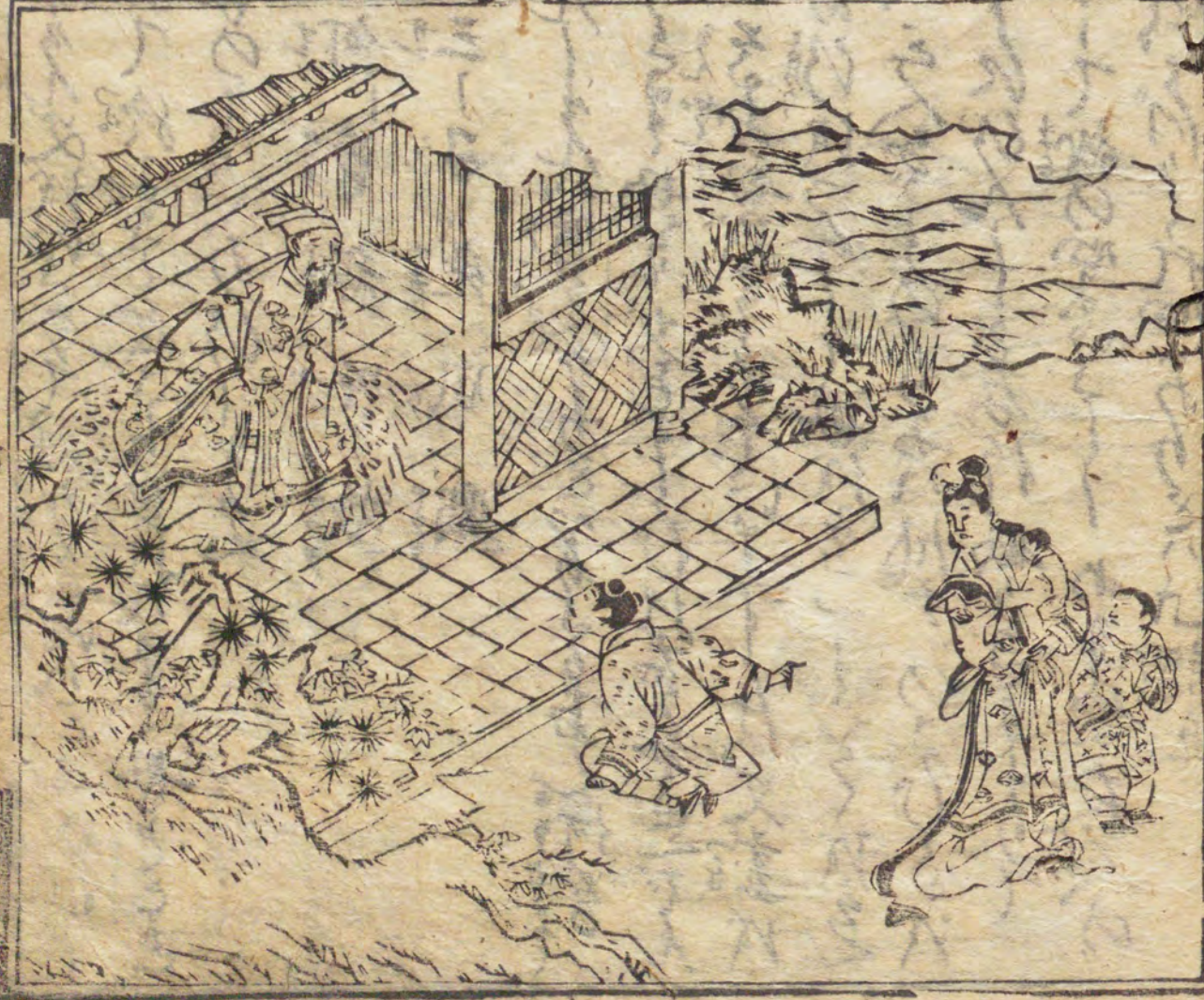
乙ノハハ
 冬月ハ食次過て煖ず
 又
 冬月ハ食次過て煖ず
 又



の救たぐひ。我身おてわてめて救させたり。又天小枕
 枕あひて涼くする。友のわつと此父の枕床にわつと涼く
 す。又回書。おは子の獄にあり。天にまゝと書されし。子よりて
 ハ。ちやふ孝のびする。乃てす。り。と。子。之。子。の。獄。に。ま。り。る。孝。行
 は。子。の。た。め。に。獄。の。や。う。を。越。獄。の。事。に。子。右。一。黄。香。と。其
 年。の。中。よ。て。や。う。の。道。に。お。よ。ぶ。た。の。い。ふ。へ。と。今。と。さ
 した。い。ふ。と。事。と。か。め。り。心。一。と。黄。香。一。人。よ。ら。め。り。と。心。を
 ▲。それ。に。さ。さ。さ。心。ふ。た。め。か。て。事。を。り。と。て。ま。い。あ。め。り。と。ん。と。子
 人。お。れ。び。お。て。黄。香。が。孝。行。を。事。に。ま。わ。り。て。世。の。人
 と。せ。あ。め。り。と。ま。れ。と。あ。り。と。て。又。下。ふ。お。れ。さ。く。其。心。の。内。門。に。あ。き
 う。し。や。て。い。い。け。さ。と。の。孝。の。乃。に。ま。り。と。て。や。う。い。ひ。に。た。り
 ま。ん。と。獄。の。心。に。お。り。と。は。天。の。う。へ。に。是。に。一。と。と。心。を。ま。す
 人。人。に。て。も。い。う。い。ひ。と。は。古。人。の。例。と。さ

関子書

関ハ氏有り。名ハ子書。と。い
 ふ。り。山。東。の。兗。州。府。の。曲
 阜。縣。と。い。ふ。所。の。人。なり。孔子
 の。身。子。に。て。十。人。と。い。ふ。た
 ら。中。の。一。人。と。な。る。が。関
 子。と。い。ふ。子。と。や。あ。る。と。ま
 した。母。を。も。て。て。継。母。と。な
 した。後。の。母。は。之。の。子。あり
 母。我。子。と。あ。り。て。びん
 ぐ。ん。け。し。く。と。其。の。子。に。と
 たり。と。い。ふ。子。は。さ。を。さ。り
 け。く。よ。り。も。ひ。て。ぬ。え
 け。り。き。た。父。の。ら。れ。つ。ま



母の心とあはれいじんーらん父はいふて母をいふはこころい
 母の心とあはれいじんーらん父はいふて母をいふはこころい
 母の心とあはれいじんーらん父はいふて母をいふはこころい

田一氏 有賢良 何曾怨 晚娘
 子 前 母 在 三子 免 風 霜

國子なんらにありとる。びんーえん六賢人なりとある事は何も
 なんらにありとる。びんーえん六賢人なりとある事は何も
 なんらにありとる。びんーえん六賢人なりとある事は何も

妻詩

後漢代の人なりとある事は何も
 後漢代の人なりとある事は何も
 後漢代の人なりとある事は何も



めりて人いふくめあつてと食物はたふだにありき。善い心は
人にて善い。さういふ人にとりて善い。さういふ人にとりて

子^{シハ}能^{ヨク}知^{シル}事^{シガフコト}母^ホ婦^フ文^{サキニ}考^{カウアリ}於^ニ姑^{コニ}舍^{イフ}側^{カタハラニ}耳^{カニ}泉^{イシ}出^{イダ}一^{イツ}朝^{チウ}双^{サウ}鯉^リ負^{キヨフ}

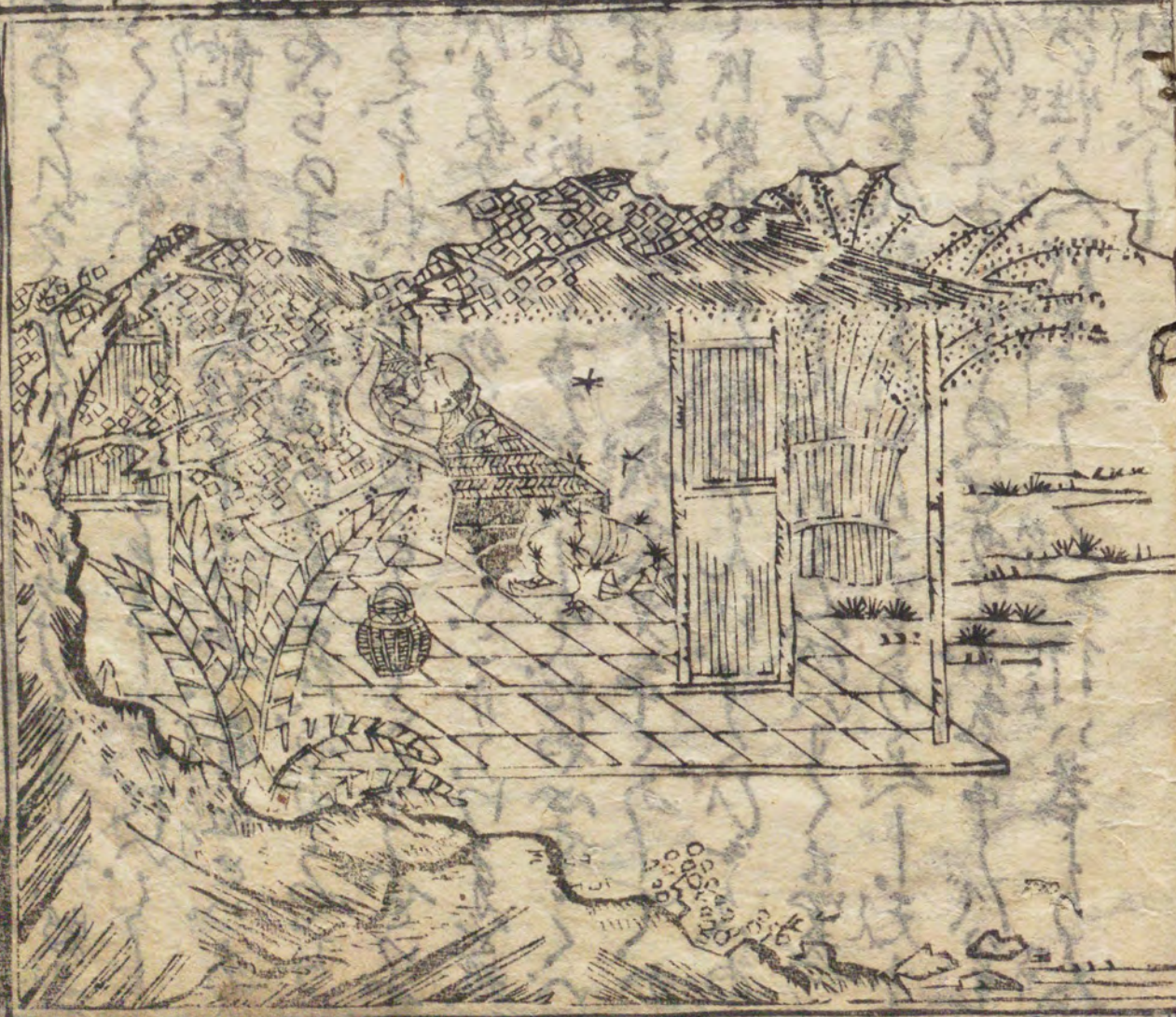
金例其来出六。姜詩事。おとけとけの水。け。手也き。が。俄。お家の。か。さ。り。

吳 樞

いづの人の事傳記
たゞ多しハカクして
その道に在る人なり
家よりくくして
ころおたんと

免^ニ 迷^ホ 蚊^カ 夏^カ
 便^ニ 渠^カ 多^ス 夜^ヤ
 入^ニ 膏^カ 不^ス 無^ナ
 親^ニ 血^ケ 敢^ス 惟^イ
 圍^イ 飽^ア 揮^ハ 張^チ

夜帷帳なりと六帷帳
敷居の事くひんみ



蛇の夜やと歩み極むるありき事なりけり
 されども敷揮もみぬ敷くくせんふひつけども
 金之集ふ膏血は終るに飽る。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 代敷ふわくまでわくこととせむ。否何の敷きつゝとくふと
 之親圍ふ入るひれは。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 移るる親圍ふ入るひれは。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 人若行の思ひありては。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 内び後以てんれふ。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 の人びの。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 なるふべし。子同。天地の性人。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 ありはきりては。渠ハ敷けりては之膏血ハあ

草永

後漢の代此人なり。字は
 延年といふ。其母は
 一てつひふ人なり。其
 母は。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 年老て。是たれ。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや
 のわけふたきて。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 かりつゝたるものちひやらの事。其猛らきものあがりや

評父。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 天。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 織。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 績。渠ハ敷けりては之膏血ハあ
 績。渠ハ敷けりては之膏血ハあ



け詩し文ぶん死して後のち等と永ながく孝こう行ぎょうの徳とくは他ほかに

唐文人

崔南より人の事なり。崔
姓より我瑄より唐の楊陵の
人より丈夫よりとある長孫より
年老て万金を賣る國より金
よりいふ不物多し我より金
よりいふ一からぬやうありて
巷行けりつとせり

考カウ 教ケウ 崔サイ 家カ 婦フ
乳ニラ 姑コ 晨フ 盥ウ 梳ス
此コ 恩オン 無フ 似ニ 報ホウ
願ガン 得トク 子シ 孫ソン 如コト
考カウ 教ケウ 崔サイ 家カ 婦フ
乳ニラ 姑コ 晨フ 盥ウ 梳ス
此コ 恩オン 無フ 似ニ 報ホウ
願ガン 得トク 子シ 孫ソン 如コト



八つうとめおきつてーやまといふ事。さうのふと。雀巢つま
 かりあつていつ。乳姑ニヤウとはこめてわひうけげふとあつてあ
 はうあつていつ。姑ニヤウやうてこ。姑ニヤウあつてあつてあつてあ
 の事。鶏ニヤウあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 一。オチ香袋年々入。あつてあつてあつてあつてあつてあ
 婦ニヤウあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 二。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 三。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 四。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 五。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 六。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 七。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 八。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 九。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 十。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

揚香

魯国の人々十五のうと
 山崎ふけて食ふ
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 の心ふけてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 子。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 一。山崎ふけて食ふ
 二。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 三。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 四。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 五。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 六。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 七。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 八。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 九。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 十。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ



孟宗

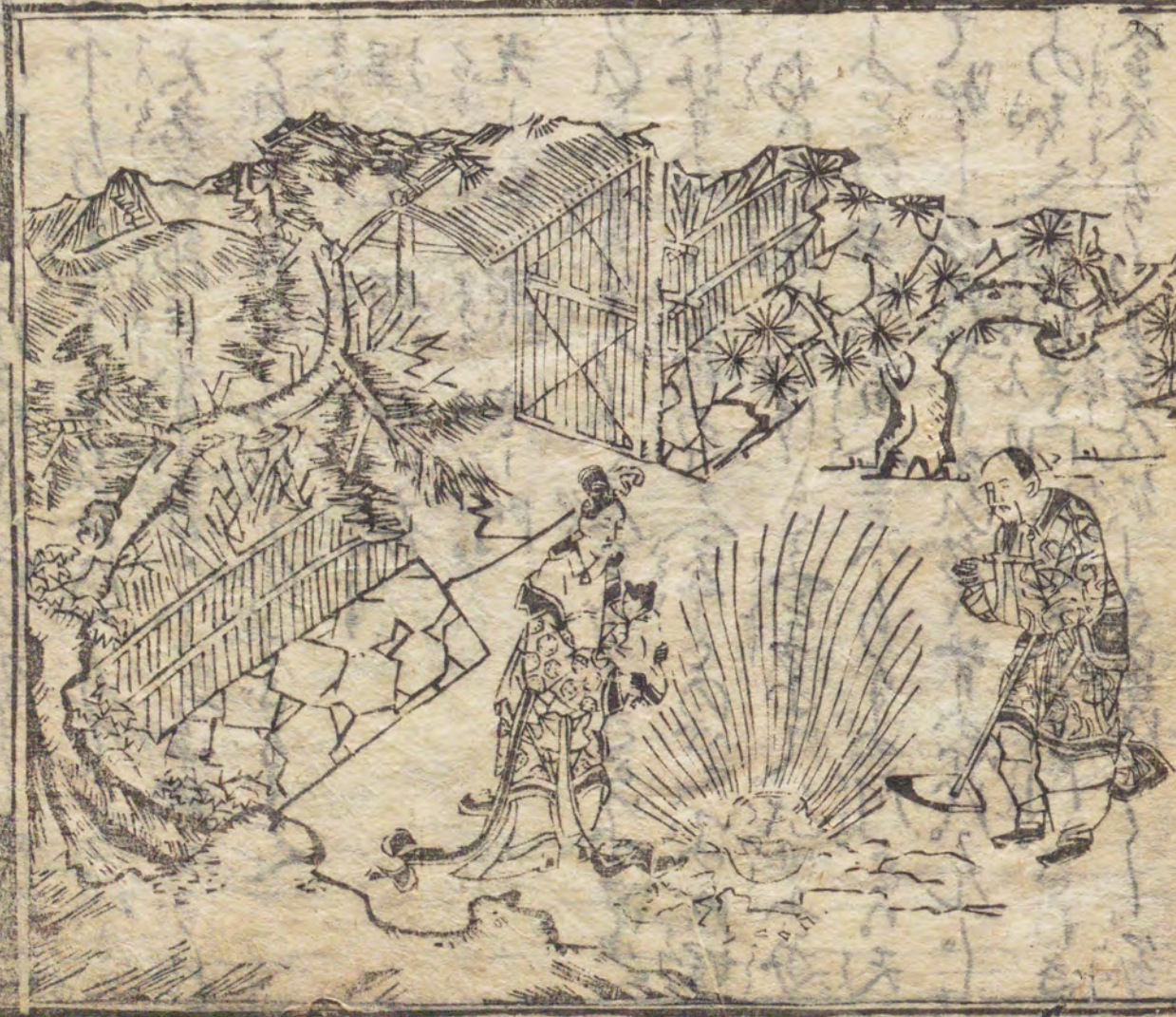
呉國の紅髪とよおの人
 晋の武氏帝に侍る
 監池司馬とよおに侍る
 池池な行もまゝ有る
 の新代母のこゝに侍る
 まゝ母人として
 漁友となりて
 波たれおはる
 と。とりたて
 たがひおはる
 まゝおはる



平ヘイ 安アン 蕭セウ 竹タケ 數スウ 竿カン 須ス 吏リ 春シュン 筍シュン 出イダ 天テン 意イ 報ホウ

洞明風にあそびて舞を。さ風水風の事。その舞は此竹
の子れあそびさうなまゝ。えおむひ新様して洞明風はひさ
蕭々たる竹とんたんと。うくさ竹のまきり。さ風水之舞
ひにやと竹のまゝ。は竹てと。やとめ。之頃更あて表
舞生きた。すうのまにき。竹のまゝ。さうさ舞とて。此
竹の中より。事之頃更。さうのまに。え。さ。舞。は。さ。す。
は。え。竹。は。う。ん。と。て。心。ま。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。
さ。う。さ。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。
ま。き。り。は。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。
者。の。竹。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。
は。え。竹。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。は。う。ま。び。く。お。ま。は。さ。の。ま。

人々を引く。一、（きり）河内（わに）より来る。
 母は若しつらむ。三ツ
 ふさ子に持寄り郭巨
 か好し。浮沈くもなり。我
 食に減るひて。あふま
 郭巨妻おとちて母の
 今人杯なりとおきけ。
 まへ月夜かみん。さ
 どどがやん。和任。我子
 のともなり。母うそれ。
 い。それなり。子ハまこわ
 る。母ハ二なり。



[illegible]

貧^{ヒシ}乏^{ホシメ}思^{ヲモヒ}供^ク給^{キウ}埋^{ウツ}兒^コ願^{カガフ}如^{ハノ}存^{ゾヤル}

黄一金天所賜光彩照寒門

貧乏なりて供養せん事ばかりいふ。貧乏なりては、
供養せんと成すのいと母に背かしく食ひわく人なくの心こゝろで堀
で母の存やう事に親とへおれ存在とのばもふ言ふてい世不
以り月をわくせしと稱よとの事。黄金天よりある所といふ天
道郭巨が我子をかちして殺し母をやりまひ及背念んじ
て金の金にわくするもの之光親重門次照と室門次さじき
家といふ也。然るに今夫ら金を奪あり其光親。後き家次て

朱子の言

宗の天皇代の人々七女は時
 又雍州のちの儀になりてあ
 る時百姓の女とてこれ
 うきふられて朱鳥の鳥毎
 次びうくそをとりて十年が
 母がとぬ事な朱鳥の鳥
 子にうけがれて宗の天皇
 の代におお録にすそ、我母
 おあそびに安下海にきて
 弟より血が出し給ひて天
 道ふいのりきれたる中へ
 ありてあわのきり其時母
 の身七すふあまれり下者

